

## 台風災害での対応について

西下 敦基（市民ネット）



Q 大雨により堤防や堆積物など河川への影響・変化はあったのか。今後の河川整備の検討・計画は。

A 県・市の管理河川ともに護岸の被災があり、災害復旧工事を進めている。国においては28年度策定された計画に基づいた整備、県では西方川・稻荷部川・小出川の事業が進められている。国・県に更なる河川整備などを要望していく。

Q 平川地区は多くの被害があったが、行政の対応は。

A 民間開発における調整池設置の指導を行うと共に既存公共施設での調整池確保について研究していきたい。併せて、黒沢川浸水対策協議会で協議していく。

Q 菊川市独自の補償制度を作り、災害に遭われた市民に寄り添うことはできないか。

A 市独自の災害弔慰金及び災害見舞金支給制度はあるが、浸水のみ被害は支援の対象になっていない。災害救助法に適用しない浸水被害に見舞金を支給している市

町もあり、調査・研究を進めていく。

Q 要支援者の避難支援の対応は誰がどのように行うべきか。また、警戒レベル5の段階で避難支援が求められた場合の対応は。

A 警戒レベル3で避難行動を開始するよう伝えているが、大規模災害では自治会や自主防災会の力をお借りしなければならぬと考えている。警戒レベル5では二次災害を防ぐことも考えていく必要がある。早めの避難とマイタイムラインを周知するよう努めていく。

他に「ふるさと納税」について質問しました。



台風19号(令和元年10月12日)時の道路冠水状況／岳洋中学校北側

## 関口隆吉像を活かしたまちづくり

落合 良子（無所属）



月岡の八穂神社には初代県知事、関口隆吉顕彰碑があり、地元で手厚く管理されている。現在、菊川駅前ロータリーでは、関口隆吉の銅像建立工事も進められている。

市のシンボルともなり得る関口隆吉氏像を教育、観光、茶業の振興などへの活用が重要な課題である。

Q 市内外へ像建立の情報発信は。

A 関口隆吉氏の生涯や功績等をまとめた記事を広報菊川に掲載。また、顕彰用パンフレットを作成し、図書館や地区センター等に配架するほか、県内市町にも送付する計画。市ホームページにも関口隆吉氏に関わる記事を掲載し、全国的な情報発信にも繋げる考えである。

Q 児童、生徒への教育は。

A 関口隆吉銅像建立の目的は、郷土の偉人である関口隆吉氏を顕彰し、偉業や功績を次世代に伝える。郷土愛の醸成につなげることであり、小、中学校合同での道徳授業を開催し、関口隆吉氏について学

ぶ機会や、社会科副読本への掲載パンフレットを作成し、保護者を含めた教育として活用したい。

Q 観光事業に生かす考えは。

A 来年度にウォーキングイベントを計画しているが、菊川駅から月岡までのルートにおいて、東館の多目的エリアを使用し、関口隆吉氏に係る資料の展示等を考えている。

Q 菊川茶業の振興のために、菊川茶のパッケージに関口氏の写真を入れる考えは。

A 茶業協会の会長として、協会の中でも話題として取り上げていく。



関口隆吉氏銅像（菊川駅前）